

校長室より

二松学舎大学附属高等学校  
校長 鶴飼教之

## 「二松から飛翔へ」～一期一会～

## いざその時のために ～救急救命講習の実施～

事故や急病は、いつどこで起こるか分かりません。どれほど備えていても、事故が起きないとは限りません。しかし、いざ起きてからでは間に合わないこともあります。そのために日頃からの訓練が必要なのは言うまでもないことです。

人が突然倒れた場合、最初に居合わせた人による応急手当が、その後の生存率を大きく左右します。119番通報をしてから救急車が現場に到着するまでには、通常7～8分ほどかかるといわれています。このわずかな時間が、命を守る上で非常に重要になります。

学年末審査中の午後、先生方が地下体育室で救急救命講習を受講し、「救命技能認定証」を更新しました。東京防災救命協会の講師の指導のもと、応急手当の重要性について学び、心肺蘇生のための胸骨圧迫や人工呼吸、AEDの使用法を実技を交えて確認しました。約2時間の講習を通して、万が一その場に居合わせた際に適切な救命活動ができるよう理解を深めました。

「あなたの大切な人を、そして誰かの大切な命を救うために」。その思いを胸に、いざという時に行動できる備えをこれからも大切にしていきたいと思えます。



## 新入生クラス編成テスト・保護者説明会 ～初々しい姿～



つい先日、卒業式で三年生を送り出したばかりですが、学校では早くも新年度へ向けた準備が始まっています。別れの余韻が残る中で、新たな出会いの季節が近づいていることを実感します。

8日(日)、新入生のクラス分けテストと保護者説明会を実施しました。新入生たちは少し緊張した面持ちで校舎4階の試験会場へ向かい、真剣な表情でテストに臨んでいました。午後には保護者の方々と合流し、制服の採寸も行われました。少しぶかぶかの学生服に戸惑いながらも、新しい高校生活への期待を胸にしている様子が伝わってきました。

初々しい姿に、これから始まる3年間への希望を感じずにはられません。

保護者説明会では、高校進学率が99%に達する中で、中学校までの義務教育と高校との違いについてお話ししました。高校は、自ら学びたいという意思を持った人が集う学びの場です。在校生の皆さんも、このことを改めて胸に刻み、一日一日を大切に過ごしてほしいと思えます。



## 「3・10」は何の日？

「3月10日」という日を、皆さんは知っているでしょうか。今から80年以上前の出来事であり、当時のことを実体験として語れる人は年々少なくなっています。

1945年3月10日、アメリカ軍による大規模な空襲が東京を襲いました。B29爆撃機およそ300機が来襲し、皆さんの住む江東区・台東区・墨田区などの下町地域を中心に激しい爆撃が行われました。わずか2時間余りの空襲で、10万人ともいわれる多くの尊い命が失われたとされています。その後も終戦の8月15日まで100回を超える空襲が続き、東京の街は焦土と化しました。3月10日は現在、東京都が定める「東京都平和の日」となっています。

東京空襲の記憶を伝える『東京空襲資料展』に行ってきました。展示された写真や語り部の証言からは、戦争の悲惨さが強く伝わってきます。世界に目を向ければ、今も各地で戦争や紛争が続いています。3月10日という日をきっかけに、平和とは何か、そして私たちができることは何かを、改めて考えてみたいものです。

